小学部　第１学年　成果報告書

令和３年５月２６日（水）３校時
５月２７日（木）３校時
サンホセ校　小学部１年１名
指導者　ロス　久美子
アグアス校　小学部１年１１名
指導者　笹森　崇弘

１　教科　単元名
国語　「わけを　はなそう」

２　単元の目標　評価の観点
・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思Ａ（１）イ）
・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思Ａ（１）ア）

３　指導観
（１）教材観
本単元は、「どうしてかというと」という言葉を使うことで、時系列的な考え方でなく「結論→理由」という論理的な考え方を引き出すことができる。これは、相手に自分の考えや意見を分かりやすく伝えるうえで大変有効な手法である。さらに、他校の同学年という、身近であって遠い存在の友人と話す練習や発表をすることで、児童は相手との共通点や相違点にも気づくことができ、さらなる学びを得ることができると考える。

（２）児童・生徒の実態
１年生の生活も、始まってふた月ほどたつと、オンライン授業ながらも児童同士の関わり方が変化してきた。今まで遠慮がちだった児童同士も、積極的に関わり始めようとする姿が見えてきた。しかし、必ずしもよい深まりだけではなく、トラブルが生じるときもある。そんなときに、わけを話すための言葉を知り、自分の気持ちを説明する活動を行なうことは、ものの見方を育てる素地を作ることになると考える。

４　指導計画（全２時間）
主な学習内容及び学習活動
（１時）　気持ちを話した後に、そのわけを話す話型を知る。
（２時）　自分の気持ちとわけを、前時で学習した話型を使って友達に伝える。（本時）

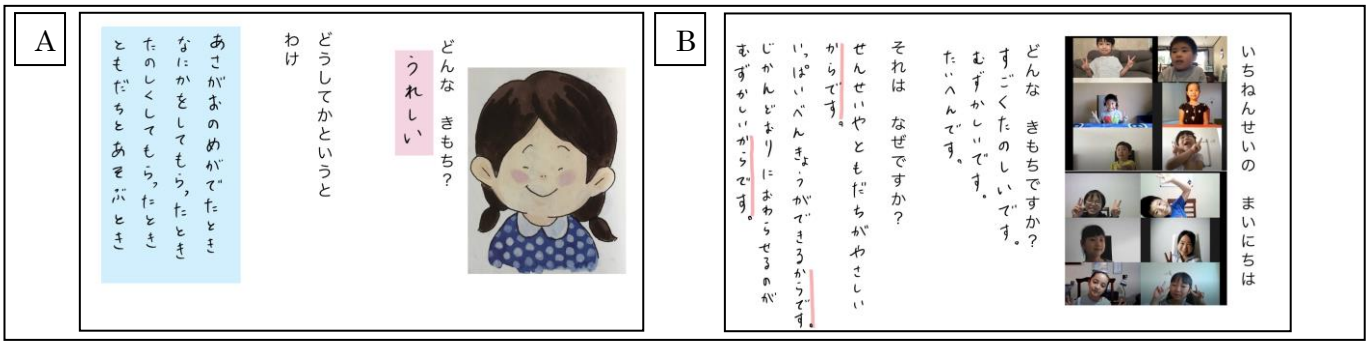
５　本時
（１）目標
・自分の気持ちとそのわけを、人に伝えることができる。

（２）指導の経過

段階	時間	教師の活動（発問・指導の工夫）児童・生徒の反応	児童・生徒の学習活動	資料等
導入		・「サンホセ、アグアスのお互いの学校生活と、そのときの気持ち、わけを発表できるようにすること」を目標にする。 ・学習に相手意識・目的意識をもたせる。	○本時のめあてを知る。	前時の板書（A）

展開		・「~です。どうしてかというと、~だからです。」という話型を導くようにする。 ・ブレークアウトルームを活用し、２、３人の小グループ→全体発表をさせる。 ・小グループ発表時に、児童それぞれのできていたところを認め、全体発表への抵抗感を軽減させる。	○小学校生活を、どのような気持ちで過ごしているか話す。	板書（B）
まとめ		・児童の感想発表や、それぞれの担任の講評をもとに、今後の生活場面でも使っていこうとする気持ちが高められるようにする。	○学習を振り返る。	

（３）板書計画



（４）児童・生徒の様子

・小グループでの発表の際、はじめは話型を意識せずに話したいことを自分なりの話し方で発表している姿が目立った。そこで、“伝えたい”という意欲を持っていることは大いに認め、そのうえで、教師が同じ内容ながら話型を意識した話し方をしてみせた。その後、小グループで聞いていた他の児童から、二つの話し方で違っていた点と、伝えたいことが分かりやすかったのはどちらかを共有させたことで、話型を意識する方向におのずと進んでいった。サンホセ校の児童は一人だったため、恥ずかしさから初めは発表に若干抵抗を示していた。しかし、事前にアイスブレーキングを行っていたことで児童同士の関係もできていたため、グループの児童が逆に質問をしたり、話しやすい雰囲気づくりに努めたりしたことでその児童も自信がつき、全体発表でも堂々と発表できた。

（５）児童・生徒の振り返り

・「どうしてかというと」という言い方は、わけを話すのにとても便利だと思いました。
・算数や道徳など、他の勉強でも使ってみたいです。
・色々なお友達の気持ちを聞けて、嬉しかったです。

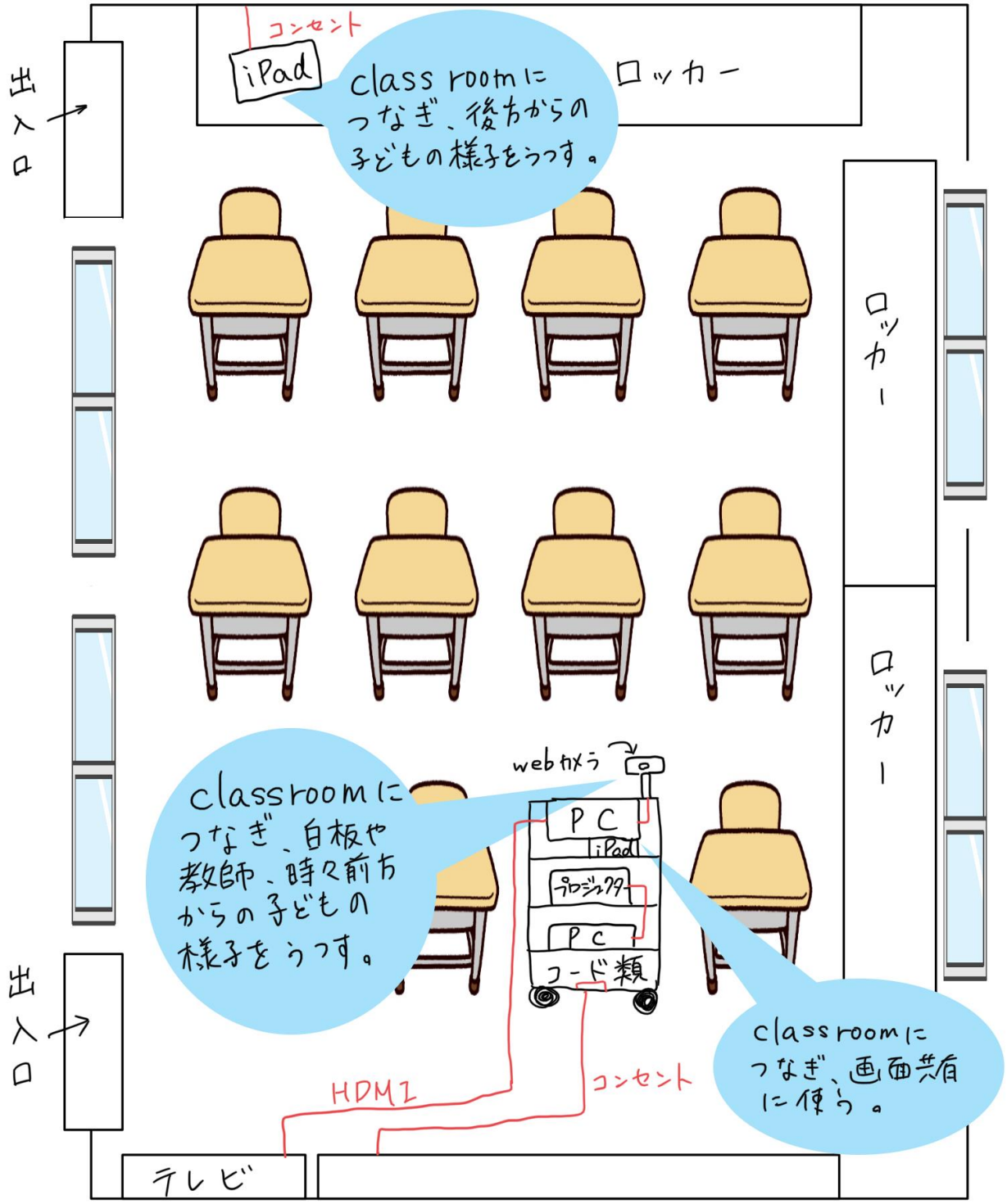
①　成果

・事前のアイスブレーキングや間接合同授業を積み重ねていたことにより、児童どうしの発表や意見交換がスムーズに進んだ。また、発表を終えて、遠く離れた場所にいる友達でも、同じ一年生として共通の楽しみや似たような経験をしていることが分かった子どもたちは、普段の授業とはまた違う表情で活動に取り組んでいた。さらに、担任以外の教師に発表を聞いてもらい、感想を聞くことで、相手意識をさらにもって学習に臨めたと考える。

②　課題

・学校生活においての自分の気持ちについて発表するので、本学習前にお互いの学校の紹介ができれば、さらに気持ちの共有ができたのではないかと考える。しかし、１年生の学習が始まって日も浅い時期なので、早期から計画的にサンホセ・アグアス両校の共同学習を行っていくことが必要である。

③　提案

・早い時期から、合同授業を進める学校どうしの紹介をする時間をとれるとよい。その際、低学年（小１・２・３）高学年（小４・５・６年）中学部（中１・２・３年）などブロックごとにし、自己紹介や行事の説明、各国の簡単な紹介などを行なえるとよい。

（６）教室レイアウト（ICT 機器の設置）